

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 科目関連実務経歴 |
|--|-----------|--|----|---|
| 専門 | はり・きゅう実技2 | 2 | 60 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | |
| 鍼灸学科 1学年 | 山内 彩乃 | はり・きゅう実技1～9, はり・きゅう臨床実習 基礎はり・きゅう理論, 臨床はり・きゅう学, 経絡経穴概論 | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示 | | | | |
| <p>はり師きゅう師が人体に刺鍼・施灸するために必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>①治療のために必要となる消毒の知識、鍼・灸における過誤や副作用について学ぶ。</p> <p>②鍼灸施術における基本的操作方法や基本技術を習得する。</p> <p>③身体の構造を実技を通して観察・理解する。</p> <p>④患者(実技のペア)に対し、思いやりを持ち、礼儀正しく、節度ある態度で接することを学ぶ。</p> <p>治療に必要な指標(ランドマーク)や経穴の取穴を学ぶ。</p> | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | |
| <p>この授業では鍼灸施術の基本となる知識・技術を学びます。</p> <p>担当教員の附属臨床施設における施術経験をもとに、安全に施術が行えるように指導をしていきます。</p> <p>はりきゅうの基本知識と動作を学び、練習器を使用して、鍼灸施術の基本を実技の中で身につけていきましょう。</p> <p>人体への鍼灸施術の基礎を学ぶとともに、解剖学的な観点から人体をとらえられる様になることを中心に学んでいきましょう。</p> <p>実技はペアを毎回変えて実施し、色々な体型で練習することで上達できます。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| 教科書: 東洋療法学校協会「はりきゅう実技(基礎編)」「経絡経穴概論」 | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | |
| <p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ●病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。 ●授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。 ●授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。 ●授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。 ●当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。 <p>※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。 出席簿は「欠席」扱いですが、授業の聴講は許可します(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)。</p> <p>【 受講科目受講時留意点 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎回、授業開始前にはその日の実技当番が担当教員に授業の準備について確認をしてください。 ●授業開始時は学校指定の実習着に着替え、実技道具を用意し、実技教室にて着席し待機して下さい。 ●実技室では実習着、実習靴、名札を着用すること(忘れた場合は授業に参加できません)。 ●授業中にふざける、騒ぐ等の態度をとることを禁止します。髪の毛の長い学生は結んで下さい。 ●実技室は飲食は禁止です(必要があれば担当講師の許可を得て下さい)。放課後であっても実技室での飲食は禁止となります。また持ち込みも禁止です。 ●実技授業に清潔さを欠いていたり、相応しくない身だしなみや服装、頭髪の者に対して、授業参加を認めない場合もあります。 ●医療事故が発生する危険がありますので、担当教員の指示には必ず従って下さい。担当教員の指示に従えない場合は、授業参加を認めない場合もあります。 ●体調不良となった者はすみやかに担当教員に申し出て下さい。 ●不明な点や、不安な場合は、必ず担当教員に確認をとって下さい。 | | | | |
| 成績評価方法 | | | | |
| 評価方法 | 評価割合 (%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | |
| 定期試験 | 100 | 授業内実技試験にて評価します。 | | |
| その他 | 0 | | | |
| (合計) | 100 | | | |

| 回数 | 開講 予定日 | テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料 | 授業日誌 | 開講日 | 担当教員 (備考) |
|----|-----------|--|------|-----|--------------|
| 1 | | 消毒 (消毒方法、使用薬剤について) 施術における諸注意 (施術室の管理、諸注意等) 実技教科書 P2～5 | | / | 山内 |
| 2 | | 医療過誤について(折鍼、気胸) 片手挿管 実技教科書 P5～7・12～14 | | / | 山内 |
| 3 | | 鍼灸治療の副作用 (脳貧血、出血、内出血、発熱・倦怠 感) 片手挿管/艾炷作成 実技教科書 P7～9・12～14・32～35 | | / | 山内 |
| 4 | | 刺鍼練習 (弾入と切皮、押手刺手、揉擦、抜鍼) 艾炷作成 実技教科書P13～15 | | / | 山内 |
| 5 | | 医療過誤について(灸の過誤と副作 用) 片手挿管/艾炷作成 実技教科書 P8・12～14・32～35 | | / | 山内 |
| 6 | | 抜鍼困難について 片手挿管/刺鍼練習/艾炷作成 実技教科書 P10～19・32～35 | | / | 山内 |
| 7 | | 刺鍼練習 (送り込み・旋擦刺法/斜刺・横刺) 施灸練習 実技教科書 P10～22・31～38 | | / | 山内 |
| 8 | | 自己下腿刺鍼(直刺・送り込み) 施灸練習(わら半紙) 実技教科書P17・32～38 | | / | 山内 |
| 9 | | 自己下腿刺鍼(直刺・送り込み) 施灸練習(わら半紙) 実技教科書P17・32～38 | | / | 山内 |
| 10 | | 自己下腿刺鍼(直刺・送り込み) 施灸練習(わら半紙) 実技教科書P17・32～38 | | / | 山内 |

| 回数 | 開講 予定日 | テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料 | 授業日誌 | 開講日 | 担当教員 (備考) |
|----|-----------|---|------|-----|--------------|
| 11 | | 自己下腿刺鍼(直刺・送り込み) 施灸練習(わら半紙) 実技教科書P17・32～38 | | / | 山内 |
| 12 | | 自己下腿刺鍼(直刺・送り込み) 自己下腿施灸(失眠) 経絡経穴P228 | | / | 山内 |
| 13 | | 試験前練習 | | / | 山内 |
| 14 | | 前期定期試験 | | / | 山内 |
| 15 | | 前期定期試験 | | / | 山内 |
| 16 | | 対人刺鍼(下肢) 自己下腿施灸(三陰交) 経絡経穴P228 | | / | 山内 |
| 17 | | 対人刺鍼(下肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 18 | | 対人刺鍼(下肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 19 | | 対人刺鍼(下肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 20 | | 対人刺鍼(下肢)、対人施灸 | | / | 山内 |

| 回数 | 開講 予定日 | テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料 | 授業日誌 | 開講日 | 担当教員 (備考) |
|----|-----------|--------------------------|------|-----|--------------|
| 21 | | 対人刺鍼(上肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 22 | | 対人刺鍼(上肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 23 | | 対人刺鍼(上肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 24 | | 対人刺鍼(上肢)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 25 | | 対人刺鍼(体幹)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 26 | | 対人刺鍼(体幹)、対人施灸 | | / | 山内 |
| 27 | | 後期定期試験 | | / | 山内 |
| 28 | | 後期定期試験 | | / | 山内 |
| 29 | | 試験の総評と復習 | | / | 山内 |
| 30 | | 基本実技(鍼・灸)の復習 いろいろなお灸 | | / | 山内 |